夢のような話

初めに

ある官庁の掲示板の片隅に、ひっそりと貼ってあったこの応募のポスタ-を見たのは9月の下旬締め切りは9/30、今回は時間がないと知りつつ、夢のような話を綴ることができると思い、なぜか童心に帰って応募に駆り立てられた。

当然、今回は審査のテーブルにも載らないことを覚悟して、取り急ぎ日頃考えていることをまずは、3つの夢物語を短時間で仕上げてみることにした。

1 無線ケーブルの開通
2, 農業
3, 林業

1 無線ケーブルの開通,

壱岐は九州本土と朝鮮半島との間にある玄界灘に浮かぶ小島で南北は約 17km、東西 15km、総面積約138平方メートルの規模であり全国で離島20番目の大きさとなっている。壱岐市は国内外の交流な島を掲げ『海と緑と歴史を生かす癒しの島』を目指している。

壱岐島の人口約 27, 500 人、比較的自給自足の土地で農業、漁業、観光の島、何をするにしても離島ということが大きなハンデがブレーキとなって行動範囲は限られている。

処で、過去には、佐賀県から壱岐～対馬～韓国へと夢のような海底トンネルの構想もあったらしいが自然消滅したらしい。

まだ、上空の話は少ないようだ。これはかなりのハードルが高いが、最近ではドローンが飛ぶ時代、何もかもが、30年位前では夢のような話がいまは現実となっている。

橋が空を飛ぶ時代が実現しそうな状況まで来ていると考えた。

そこで、壱岐島の上空をこのドローンを飛ばし、ケーブルで結んでいく構想である。橋をドローンで吊り上げて空中交通をする。将来的には本州と壱岐を結ぶのだ。

ここで、新規な取り組みは見えない無線のドローンであれば、様々な障害をクリア出来ると考えた。

詳細に書けばかなり長くなるが、様々な問題をクリアすることができる。 離島、壱岐島から無線ケーブルの開通を目指すのだ。

総面積約138平方メートルで福岡にも韓国にも近い離島ならでのビジョンと考えている。

これによって、物流、人、気候変動や物流危機を回避が可能になるだろう。

2, 農業

日本各地からGPSやコンピューターでドローンを操り、斬新的な農業を始める。
種まきから収穫までの一連の作業をテレビモニターを操作しながら、スーツ姿で東京のオフイスで農業を行う。

農業は土起こしから収穫までの一連の作業を昔から約八十八回の作業が必要とされている。
まず農業は土づくりからであるため、新しい農法としては、植え付ける農地の地下及び上空にケーブルを張って作物をリアルタイムで監視制御する。
これによって、上空からは、気温、天候、航空防除を行いまた、地下からは土壌の管理を一括して行う。
収穫や時期もこの管理システムによって地下及び上空にケーブルによって行ない、その日の野菜を収穫、店頭販売できるシステムを構築するのだ。
これによって、四季を問わない野菜の収穫が行えるほか、消費者に様々な、低価格な商品の提供ができる。
また、稲作もドローンで監視しながら、適切な水の管理や調整も新しい監視レーダーを駆使して様々な機械化に挑戦する。
こうした一連の農業を行うことによって、後継者不足 3kはもとより魅力的な農業が生まれると確信する。

3, 林業

林業の分野においても、現在どこにでも設置されている無線タワーとGPSを連動させ山林の管理を一手に行うシステムを構築する。材木の成長過程は長い、30 年、50 年、いや 100 年にも及ぶ長期戦のため木々の成長過程を全てモニターで管理していくのだ。

確か、国有林は山師という人が数人いて山林管理しているらしいが、みんな高齢で後継者は少ない。そこで、日本国土と自然を守るためにも、自然災害や、山林維持を続けGPSやコンピューターでドローンを操り、斬新的な林業を始める。

様々な問題を解消すべく、大まかには、適切な時期に、一つの機械が山林に投入され一つの機械によってコンピューター指示で作業をしていく。

例えば、植林～防除～伐採～製材～販売管理まで成長過程を観ながら機械によって行うといった画期的な方法と考える。

壱岐島から日本各地、いや世界に向けて発信していく。信じられないことが出来ていく時代、誰かがチャレンジャーにならない限り、何も始まらない。

とりあえず、単なるパフオーマンスでいつの日か誰かが笑顔になってくれたらうれしい。

ありがとうございました。